



千種区 将来ビジョン

令和2年度～令和5年度

令和2年5月



名古屋市千種区役所

千種区民の皆さまへ

日頃より、区政の運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

このたび、令和5年度までの4年間の千種区のめざすべき姿を明らかにし、その実現に向けた取り組みを千種区将来ビジョンとして取りまとめました。

千種区は、住環境・商業・自然・教育がバランスよく調和したまちとして発展していることから、「住みたいまち 住みやすいまち 千種区 ～暮らしやすさを実感できるまちをめざして～」を基本目標に掲げました。

これからも、区民の皆さまのお声を聴きながら、皆さまが住みやすく、暮らしやすさを実感していただけるまちとなるよう、職員一丸となって取り組んでまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年5月 千種区長

区のシンボルマーク



千種区の「千」の字を伸
びる樹にみたて意匠化
し、太陽と緑に恵まれた
区をイメージしたもの

(昭和47年1月20日制定)

区のマスコットキャラクター こあらっち



コアラをモチーフにした
キャラクター
頭のアジサイとまあるい
しっぽがチャームポイント

(平成21年9月27日誕生)

区の花 アジサイ



梅雨期、装飾花が球状
に集まって咲く
毎年6月は千種区アジ
サイ月間としてPR

(平成2年1月22日制定)

区の木 ハナミズキ



春に薄いピンク色や白色
の鮮やかな花が咲き、
秋には紅葉も楽しめる
落葉中高木

(平成2年1月22日制定)

目次

第 1	はじめに	P 1
	1 区将来ビジョンとは	P 1
	2 計画期間	P 1
	3 区将来ビジョンの推進に向けて	P 1
第 2	千種区の概要	P 2
	1 歴史・沿革	P 2
	2 千種区ってこんなまち	P 3
	3 数字から見る千種区の特性	P 4
第 3	千種区将来ビジョンについて	P 7
第 4	基本目標の実現に向けて	P 9
	めざすまちの姿	
	1 地域で支え合い、安心・安全に暮らせるまち	P 9
	2 安心して子育てができるまち	P13
	3 誰もがいきいきと健康で安心して暮らせるまち	P17
	4 魅力と活力にあふれ、誰もがまちの魅力を語れるまち	P23
	5 快適な都市環境とを感じるまち	P27
	信頼される区役所づくり	P31





1 区将来ビジョンとは

区将来ビジョンとは、平成29年3月に名古屋市が策定した「区のあり方基本方針」に基づき、区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、めざすべき区の姿を明らかにし、その実現に向けた中長期の取り組みを体系化したものです。

また、区将来ビジョンは、名古屋市がめざす都市像の実現のために必要な施策や事業を総合的・体系的に取りまとめた「名古屋市総合計画2023」の個別計画に位置付けられています。

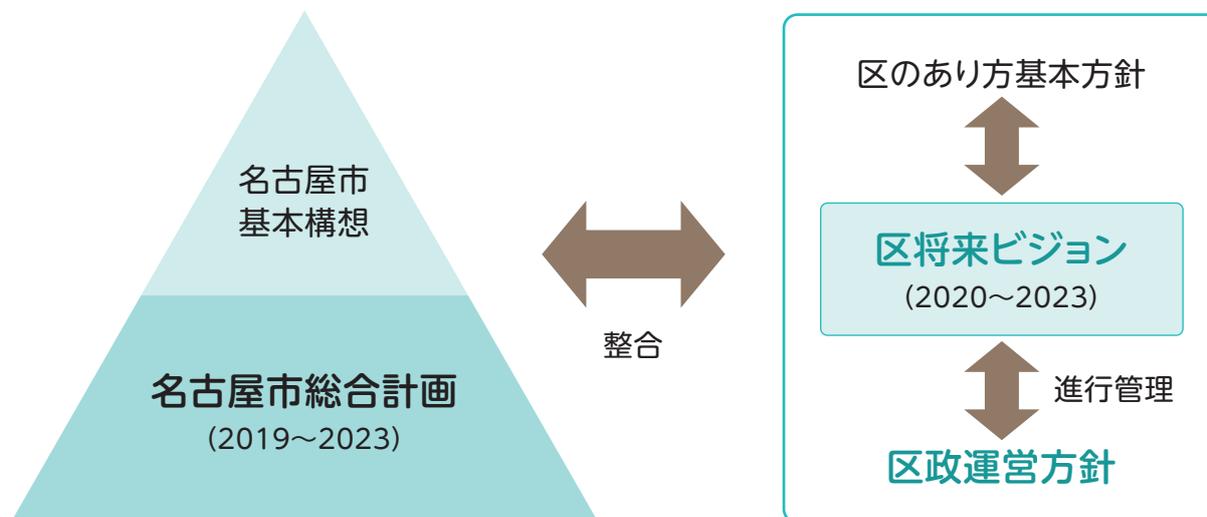
2 計画期間

令和2(2020)年度から令和5(2023)年度までの4年間です。

3 区将来ビジョンの推進に向けて

区将来ビジョンに基づき実施する年度ごとの具体的な取り組みについては、毎年度策定する区政運営方針に掲載し実行することで、区将来ビジョンの推進をはかります。

また、区将来ビジョンの進行管理も区政運営方針において行います。



第2 千種区の概要



1 歴史・沿革

明治21年の市町村制の施行により千種村、鍋屋上野村、田代村が発足し、明治35年に千種村を千種町と改称、明治39年に鍋屋上野村及び田代村が合併し東山村となり、明治42年には千種町の一部が名古屋市に編入され、大正10年には千種町及び東山村が名古屋市東区の区域として編入されました。

昭和12年10月に東区から分区して千種区が誕生し、昭和30年4月に愛知郡猪高村を編入し猪高支所を設置、昭和50年2月に名東区の一部として猪高地区が分区し、千種区が現在の区域となりました。

むかしの千種区



覚王山から末盛付近（昭和12年頃）



今池交差点（昭和30年頃）



竹越バス停付近（昭和37年頃）

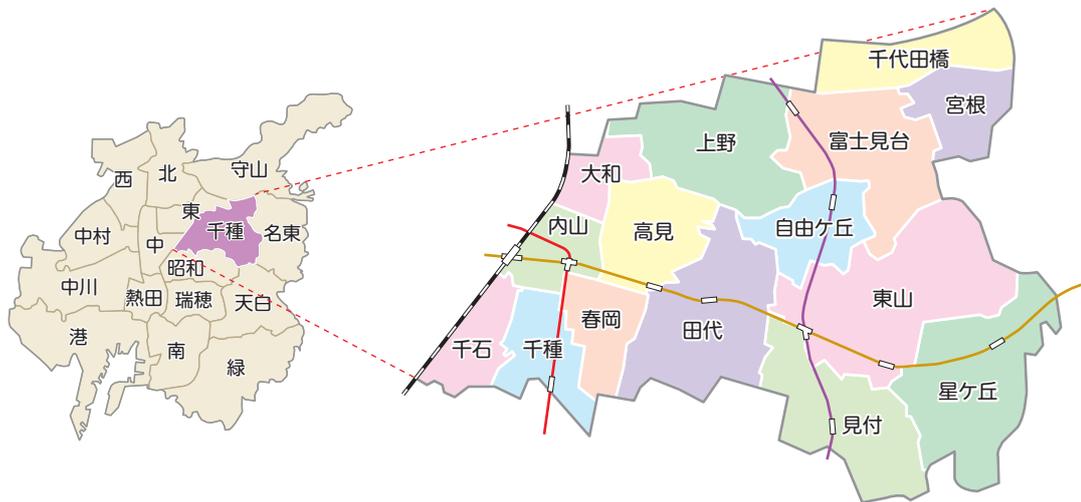


JR(旧国鉄)千種駅（昭和39年頃）

2 千種区ってこんなまち

千種区は住環境・商業・自然・教育がバランスよく
調和したまちとして発展しています。

- 地下鉄が3路線11駅、JR中央線が1駅あり利便性に恵まれています。
- 古くからの閑静な住宅地が広がる一方、新しいマンションも増えています。
- 今池・本山・星ヶ丘地区を中心に商業が発展し、人気の飲食店や商業施設があります。
- 日泰寺や揚輝荘など歴史的建造物が多く残されています。
- 約400ヘクタールの自然豊かな「なごや東山の森」が広がり、東山動植物園、平和公園など豊かな自然が残されています。
- 多くの高校や大学があり、文教地区にふさわしい環境をつくりだしています。



日泰寺



星ヶ丘の商業施設



なごや東山の森



東山動植物園

3 数字から見る千種区の特徴

(1) 数字から見る千種区

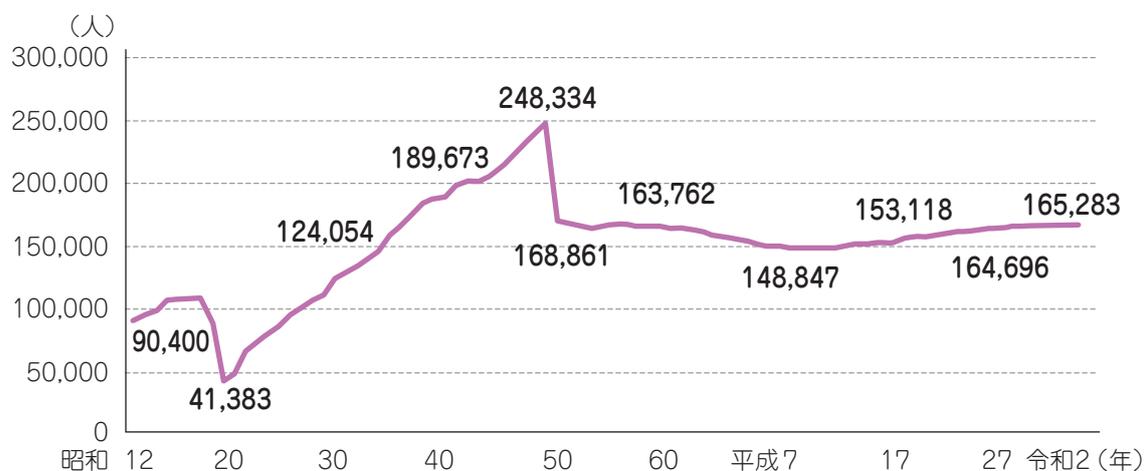
(○の数は16区中順位)

区分	千種区	名古屋市	時点	
面積	18.18km ² ⑧	326.50km ²	令和2年4月1日	※1
人口	165,283人 ④	2,324,877人	令和2年4月1日	※1
世帯数	87,728世帯 ③	1,122,648世帯	令和2年4月1日	※1
転入者数 転出者数	14,089人 ② 13,416人 ①	172,264人 160,337人	平成31年4月～ 令和2年3月	※1
外国人人口	6,731人 ④	87,084人	令和2年4月1日	※2
大学数 大学学生数 高校数 高校生徒数	5校 ① 24,044人 ② 9校 ① 10,287人 ①	31校 104,829人 63校 66,186人	令和元年5月1日	※3
都市公園面積	206.39ha ①	1,301.98ha	平成31年4月1日	※4

出典:統計なごやWeb版

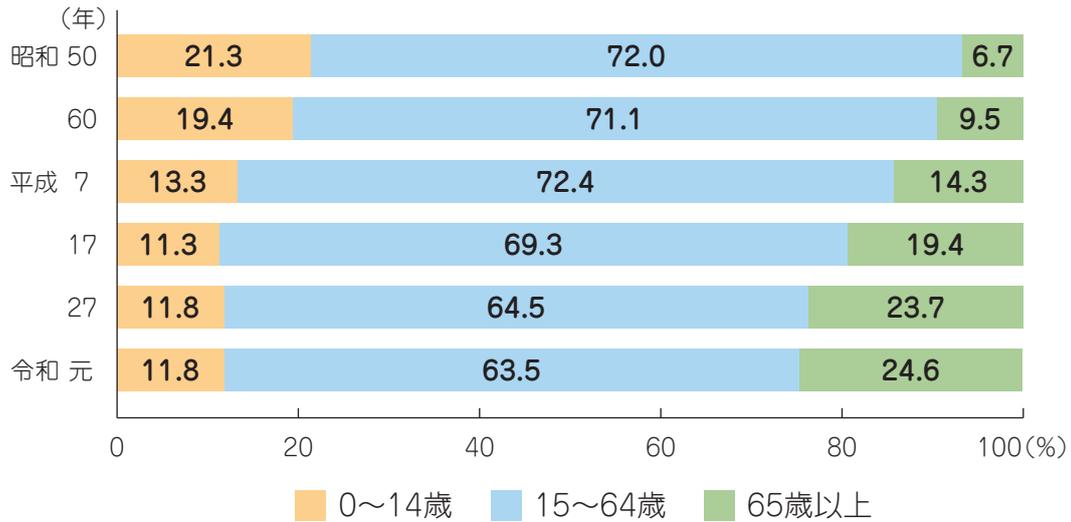
※1: 毎月1日現在の世帯数と人口 ※2: 外国人公簿人口 ※3: 学校基本調査 ※4: 名古屋市みどりの年報

■ 千種区の人口の推移 (各年4月1日現在)



千種区の人口は、昭和12年には約9万人でしたが、太平洋戦争による影響などにより昭和20年頃大きく減少しました。その後復興とともに増え続け、昭和49年にピークを迎えました。昭和50年に猪高地区が千種区から分区した以後は、緩やかな人口推移となっています。

■ 千種区の年齢区分別人口の推移 (各年10月1日現在)



出典:「千種区の世帯数と人口(令和元年人口動向調査)」より作成

千種区の年齢区分別人口の推移を見ると、0～14歳の年少人口は近年横ばいで推移しており、15～64歳の生産人口は減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加しています。長期的な少子化傾向もあり親となる世代の人口も減少していることから、高齢化が進んでいます。

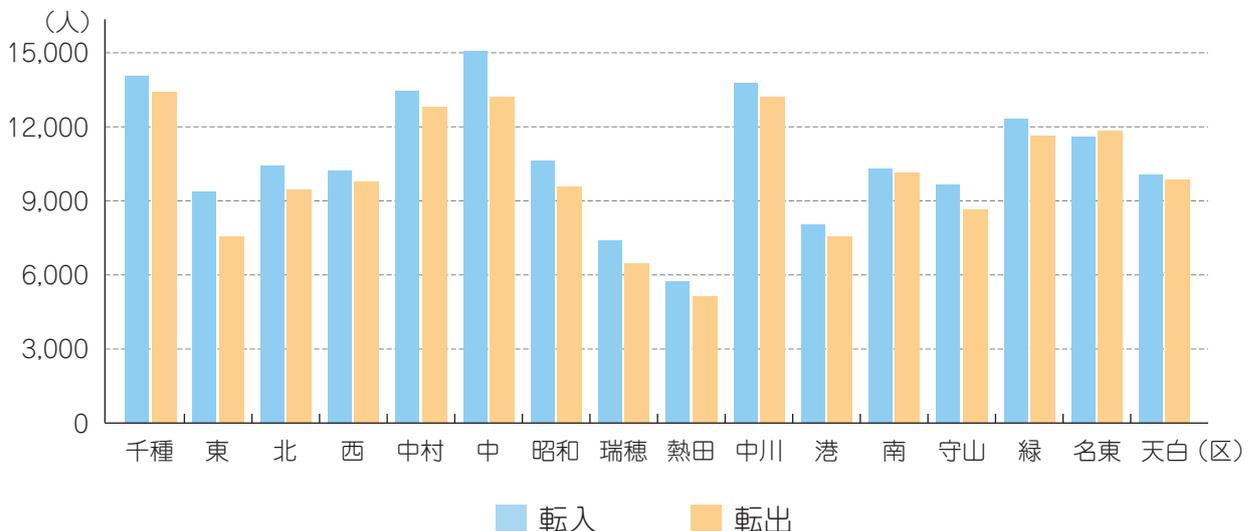
(2) 千種区の特徴

住民の異動が多いまち



転入者は年間約1万4千人で16区中2番目、転出者は年間約1万3千人で16区中最も多く、住民の異動が多いことが特徴です。

■ 転入転出者数 (平成31年4月～令和2年3月)



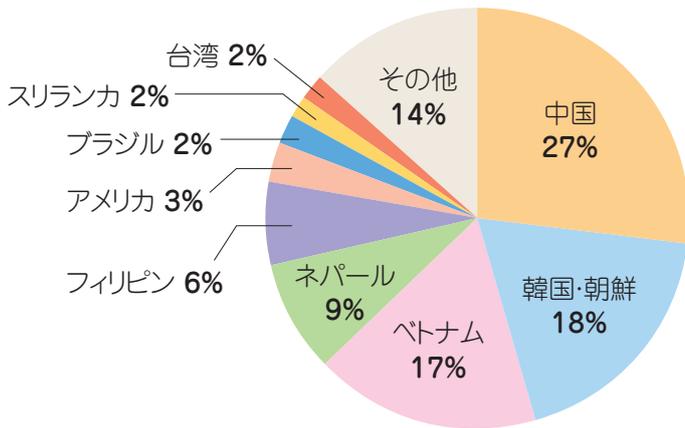
出典:統計なごやWeb版「毎月1日現在の世帯数と人口」より作成

外国人が多く暮らすまち



外国人の数が16区中4番目となっており外国人が多く暮らすまちです。
国籍別の内訳では、中国、韓国・朝鮮に次いで、ベトナム、ネパールと続いています。特にベトナムは、16区中で最も多いのが特徴です。

外国人の国籍別内訳 (令和2年4月1日現在)



国名	人数(人)
中国	1,826
韓国・朝鮮	1,243
ベトナム	1,171
ネパール	583
フィリピン	419
アメリカ	200
ブラジル	156
スリランカ	123
台湾	116
その他	894
合計	6,731

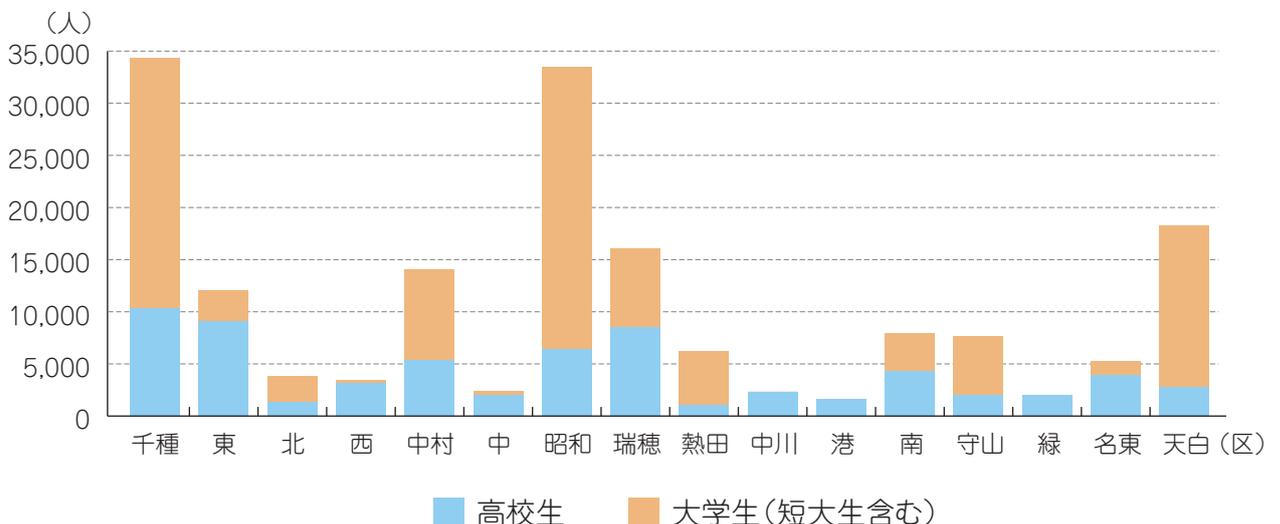
出典:統計なごやWeb版「外国人公簿人口」をもとに千種区作成

わかものが多く活動するまち



高校が9校、生徒数が約1万人で16区中最も多く、大学が5校、学生数が約2万4千人で16区中2番目に多く、わかものが多く活動するまちです。

高校生・大学生(短大生含む)の数 (令和元年5月1日現在)



出典:統計なごやWeb版「学校基本調査」より作成

基本
目標

「住みたいまち 住みやすいまち 千種区」

～暮らしやすさを実感できるまちをめざして～

めざすまちの姿

1 地域で支え合い、安心・安全に暮らせるまち

施策 1 地域防災力の向上をはかります

施策 2 犯罪や交通事故のない安心・安全な
地域づくりを進めます

2 安心して子育てができるまち

施策 3 安心して子育てができるよう
子育て家庭を応援します

施策 4 子どもが健やかに成長できる
環境づくりを進めます

3 誰もがいきいきと健康で安心して暮らせるまち

施策 5 高齢者が地域で安心して
暮らせるよう支援します

施策 6 生涯にわたって心身ともに
健康に暮らせるよう支援します

施策 7 障害に対する理解を深め、障害のある人の
自立と社会参加を支援します

4 魅力と活力にあふれ、誰もがまちの魅力を語れるまち

施策 8 まちの魅力発信を積極的に進めます

施策 9 文化芸術活動やスポーツを通じて
まちの活力を向上させます

5 快適な都市環境と感じるまち

施策 10 きれいで気持ちよく暮らせる環境をつくります

施策 11 身近な自然にふれる機会をつくります

信頼される区役所づくり

施策 12 区民ニーズの把握

施策 13 区民サービスの向上

区役所は区民ニーズの把握に努め、外国人やわかものが多いといった区の特長も踏まえながら、時代にあった行政サービスを提供するとともに、区民や地域の団体など様々な人や機関と協働して取り組むことで、千種区が「めざすまちの姿」となるようバランスの取れたまちづくりを進めます。

また、職員一人ひとりが自らの業務に精通し、区民ニーズを踏まえて常日頃から業務に取り組むことなどにより、区役所全体の仕事の質を高め、一層のサービス向上をめざし、「信頼される区役所づくり」を進めます。

次のページからは、基本目標の実現に向けてめざすまちの姿ごとに施策を掲げ、それぞれの現状と課題、主な取り組みの方針を示していきます。

また、取り組みの成果をはかるために成果指標と目標値を設定しました。

※成果指標のうち「区民の割合」の現状値については、名古屋市総合計画2023との整合をはかるため、区民アンケートにおいて「わからない」と回答した人を除いて集計しています。



めざすまちの姿 1

地域で支え合い、安心・安全に暮らせるまち

施策 1 地域防災力の向上をはかります

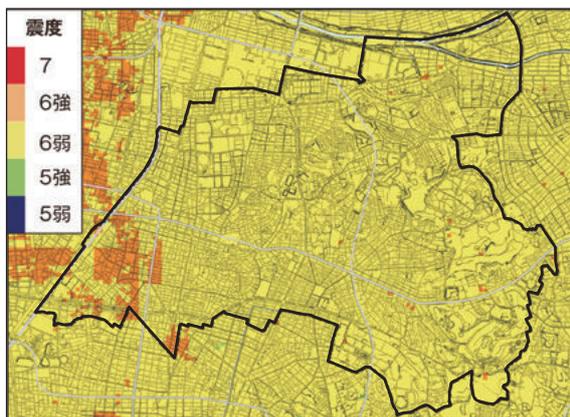
現 状

- 今後30年間で南海トラフ巨大地震の発生する確率は70～80%と切迫度が増しており、減災対策や地域防災力の向上への取り組みに対する関心が高まっています。
- 地盤が強固で地震や洪水の災害に対する危険性が低い区域がある一方で、急傾斜地が数多く存在し、土砂災害警戒区域は58箇所あります。
- 発災時の活動の中心となる町内会単位の自主防災組織における自主防災訓練の年間実施状況は、区内327組織のうち、1割未満に留まっています。

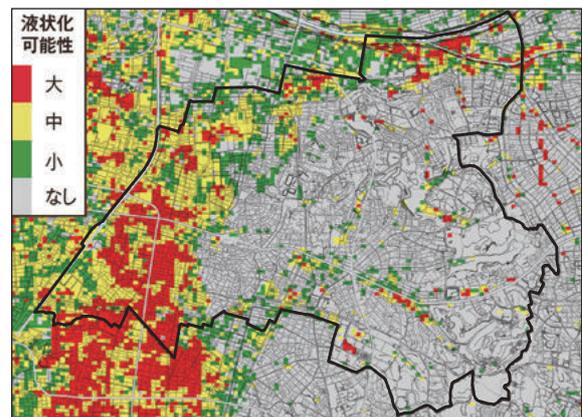
課 題

- 大規模災害が発生した際は、自助、共助が重要となってきますが、共同住宅の比率が高いことや住民の異動が多いことなどにより地域コミュニティの希薄化といった課題が生じており、自助、共助を強化していく必要があります。
- 災害リスクの認識、非常時の避難行動や家具の転倒防止対策など効果的に広報・啓発を行っていくことが必要です。
- 防災リーダーの育成を継続的に行っていくとともに、防災・減災の担い手のすそ野を若い世代まで広げることが必要です。
- 増加している外国人に対して、災害時の行動のとり方などを伝えていく取り組みが一層求められます。

あらゆる可能性を考慮し最大クラスの地震を想定した千種区の震度・液状化の可能性



震度



液状化

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
地域における防災への取り組みが進んでいると思う区民の割合	56.3% (令和元年度)	59%
家具の固定などの転倒防止対策を実施している区民の割合	58.9% (令和元年度)	100%
地域の災害リスクや防災上の課題等を把握している自主防災組織の割合	64.8% (令和元年度)	100%

主な取り組みの方針

■ 地域防災力の向上

地区防災カルテや防災診断書などを活用し、災害リスクや避難行動の広報・啓発及び地域の防災リーダーの育成を進めるとともに、防災に関する各種訓練や家庭における家具固定の普及啓発などを通じて自助・共助の意識を高め、地域防災力の向上をはかります。

■ 若い世代の防災意識の向上

地域防災の中心として若い世代に活躍してもらうため、日頃から災害についての理解を深め、災害発生時には自分の命を守り、地域においてその力を発揮できるよう、ちくさ子ども防災キャンプなど若い世代に向けた取り組みを実施します。

■ 多文化共生の視点からの防災への取り組み

日本の文化・習慣が定着していない外国人に対して避難時の行動、災害情報の入手方法など、万が一の時にどうしたら良いか学べるように、防災啓発を進めるなど多文化共生の視点から取り組みます。



家具の転倒防止作業



ちくさ子ども防災キャンプ

施策 2 犯罪や交通事故のない安心・安全な地域づくりを進めます

現 状

- 名古屋市住宅対象侵入盗は政令指定都市ワースト2位です。千種区でも住宅対象侵入盗は多発し、車上ねらいは市内でも多い傾向にあります。
- 振り込め詐欺などの高齢者を狙った犯罪が増加傾向にあります。区役所職員を騙る還付金詐欺も増えており、被害額を含め増加傾向にあります。
- 名古屋市における交通事故状況は、交通死亡事故が政令指定都市ワースト3位です。千種区は区外からの流入車により交通量が多く、自転車による人身事故も自動車による人身事故の次に多くなっています。

課 題

- 市民一人ひとりが防犯への意識を高く持つための啓発活動や地域全体で犯罪を防止する環境づくりの取り組みをさらに進めていく必要があります。
- 交通安全については、高齢者や学生に対する啓発活動のほか、増加傾向にある外国人向けの交通安全啓発についても進めていく必要があります。
- 犯罪や交通事故の防止には、地域と行政が一体となった活動を行うことにより、犯罪の抑止や交通ルールの遵守につながることを期待できるため、今後も引き続き取り組んでいく必要があります。
- 安心・安全な地域づくりには、地域コミュニティの活性化をはかる必要があります。



防犯パトロール



交通安全フェア

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
犯罪や交通事故のない安心・安全なまちづくりが進んでいると思う区民の割合	54.9% (令和元年度)	63%
区内における主要罪種*の認知件数	476件 (令和元年)	420件
区内における年間交通事故死者数	2人 (令和元年)	0人

主な取り組みの方針

■ 防犯活動の推進

発生する犯罪の罪種の傾向を捉え、犯罪の手口やその対策について、街頭キャンペーンなどを通じた啓発活動を地域と一体となって進めるとともに、地域の防犯意識を高め、犯罪被害防止をはかります。

■ 交通安全啓発活動の推進

交通弱者である高齢者や子どもが交通事故にあわないよう啓発活動を実施するとともに、高校生に対して自転車安全利用に関する講話等を実施するほか、外国人向けの交通安全啓発活動を実施します。

■ 地域コミュニティの活性化

将来に向けて安心・安全な地域が保てるよう、町内会・自治会加入率の向上をはじめ、地域の取り組みを支援するとともに、若い世代に対し地域活動への参加を促すことで、地域コミュニティの活性化をはかります。

※主要罪種:体感治安に影響を与えやすい罪種のうち名古屋市が指定する罪種で、強盗、恐喝、侵入盗、自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、部品ねらい、車上ねらい、ひったくり及び自動販売機ねらいをさします。



安心して子育てができるまち

施策 3 安心して子育てができるよう子育て家庭を応援します

現 状

- 平成9年から千種区が独自事業として始めた「エンゼル訪問(赤ちゃん訪問)」は、地域と家庭をつなぎ、子育てを応援していくために効果のある取り組みと認められ、現在は全市に広がっています。
- 安心して子育てができるよう、つながりづくりの場として各地域で開催されている子育てサロンはじめ、子育てネットワークちくさによる「ミニ子育て広場」など地域と一体となった子育ての取り組みを行っています。
- 転入者が多いことから、市外から転入された乳幼児のいる家庭に対して、子育て総合相談窓口において面接により子育て情報等を提供し、子育て支援機関の早期活用につなげています。

課 題

- 転入転出が多く住民の異動が頻繁であることから、近くに頼る人がおらず保護者同士のつながりも不足しがちになるため、相談支援や地域等とのつながりづくりを充実していくことで、孤立化を防ぐとともに児童虐待の防止にもつなげていく必要があります。
- 増加する外国人世帯に対して、子育て支援の充実をはかることが必要です。
- 妊娠期からの切れ目のない支援により、出産や子育てに関する不安を解消し、子育てに喜びを感じ、子育てに対して必要な意欲と知識を家族が共有し醸成する取り組みを進める必要があります。



子育てサロン



千種区子育て支援情報がいで

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
子ども(主に乳幼児)を安心して育てることができるまちだと思ふ区民の割合	81.8% (令和元年度)	85%
子育て広場の参加者数	1,341人 (令和元年度)	1,700人

主な取り組みの方針

■ 子育て家庭の孤立感・不安感の軽減

子育て中の保護者が安心して子育てができるよう、身近で相談できる体制を充実するとともに、保護者同士のつながりが持てる機会をつくります。

また、外国人にとっても言葉の壁を意識することなく相談できる取り組みを進めます。

■ 働きながら子育てしやすい環境づくり

保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう、子育てのコンシェルジュとして機能できる窓口づくりを進めます。

■ 子どもを虐待から守るための支援

児童虐待の発生予防から早期発見に向け、関係機関との連携強化をはかります。

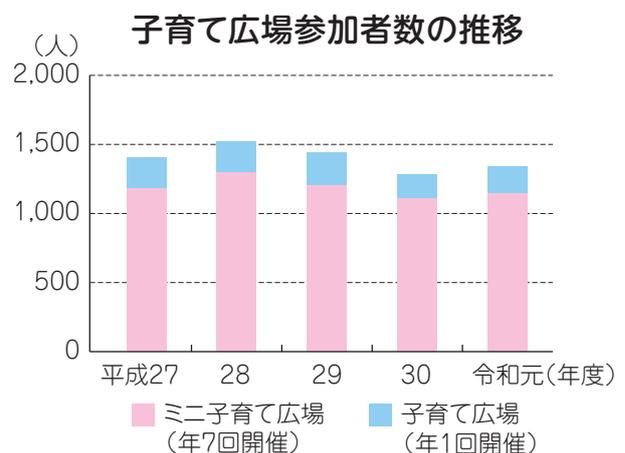
また、児童虐待をいち早くキャッチできるように「児童相談所虐待対応ダイヤル189(いはやく)」を普及させるなど啓発を一層強化し、地域全体で子どもを見守るという機運を高めます。

■ 妊娠期から子育て期へ切れ目のない支援

子育て支援に携わる関係機関との連携を強化し、妊娠期から子育て期へ切れ目のない支援を充実します。



ミニ子育て広場



出典:千種区作成

施策 4 子どもが健やかに成長できる環境づくりを進めます

現 状

- 児童が命の大切さを理解し、豊かな人間性を育むことを目的として、主に小学校高学年を対象に、赤ちゃんの人形を使ってお世話の体験をする「思春期セミナー」や地域の方々の協力を得て乳幼児とふれあい、その親の話を聞くなどする「ふれあい思春期セミナー」を実施しています。
- 高校生や大学生の数が多く、学生からは、「地域と関わりたい」、「学生を地域の資源として活用してほしい」という意見も寄せられており、「親子クッキング教室」や大学祭などのイベントでの食育ブース出展などを大学と連携して実施しています。
- 青少年が安心して暮らせるまちをめざし、名古屋市が夏と冬に実施している「青少年をまもる運動」強調期間に合わせて、「千種区子ども安心週間」を設け、重点的に啓発活動を実施しています。
- 大人が子ども一人ひとりを温かく見守りながら、ときに励まし、ときに注意や助言をすることにより、地域の連帯感と教育力を高めることを目的とした「地域の世話やき活動」を推進しています。

課 題

- 子どもと保護者を一体とした家族に対する支援や子どもが健やかに成長できるよう子どもの見守り活動を進めていくことで、地域全体で子どもを育てていく意識を高めることが必要です。
- 学生が多いという区の特性を活かし、学生と連携して子育てに関する事業を進めていくことも必要です。



ふれあい思春期セミナー



親子クッキング教室

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
子ども(主に小学生以上)が健やかに成長できるような取り組みが進んでいると思う区民の割合	74.5% (令和元年度)	78%
「思春期セミナー」及び「ふれあい思春期セミナー」実施学校数	16校 (令和元年度)	19校

主な取り組みの方針

■ 思春期を迎える児童に対する取り組み

思春期を迎える小学校高学年や中学生に対して、命の大切さや親から受けた愛情を理解し、豊かな人間性を育めるよう取り組むとともに、性に関して正しい知識を普及する取り組みを進めます。

■ 学生等との連携による子育て支援

学生等と連携し、「食」に関する取り組みなどを通して子育て家庭への情報提供を行ったり交流の場を設けるなど子育て支援の取り組みを進めます。

■ 青少年健全育成の推進

子どもが安心して暮らせるまちをめざし、啓発活動を実施するとともに、地域の方々が、登下校時の声かけやあいさつ運動、パトロール活動などを通じて子どもを見守る「地域の世話やき活動」を全学区で推進し、地域全体で子どもを温かく見守る環境づくりを進めます。



学生等との連携による子育て支援
(東山動植物園春まつりでの食育ブース出展)



地域の世話やき活動の推進

誰もがいきいきと健康で安心して暮らせるまち

施策 5 高齢者が地域で安心して暮らせるよう支援します

現 状

- 千種区の高齢化率は24.7%(平成31年4月現在)となっており、団塊の世代が75歳以上となる2025年には25.1%に達すると推計されています。このことから、医療・福祉分野のニーズの増加が見込まれています。
- ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯や認知症高齢者の数も年々増加しており、高齢化の進行に伴い、いずれも増加が見込まれています。
- 高齢者を対象とした「健康とくらしの調査2016」では、「地域活動の参加意向がある者」や「近所とのつながりがある者」の割合が、千種区は名古屋市より低い傾向にあります。

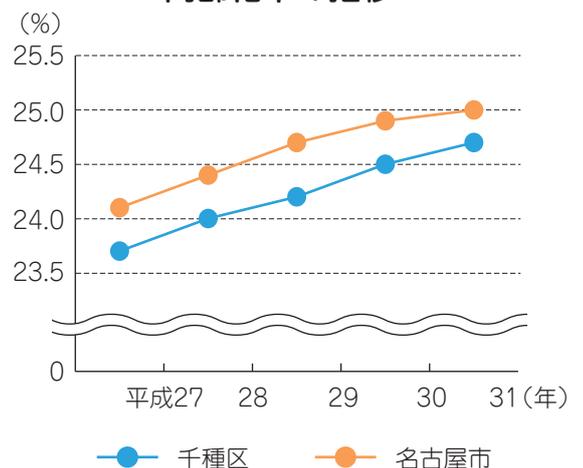
課 題

- 高齢者がこれからの時間を自分らしく暮らしていく支援や家族も含めて本人が望む暮らしについて、普段から話し合える環境づくりが必要です。
- 高齢者が様々な社会活動に参加し生きがいを持って暮らせるよう支援していくことや地域とのつながりを深めるため、幅広い世代の力を活用するなど高齢者サロン等の身近な居場所への参加を促す取り組みが必要です。
- 日常生活においては、高齢者が地域で安心して暮らせるように地域住民をはじめとした多様な主体による見守り活動などの支援が必要です。
- 認知症の人の意思が尊重され安心して暮らせる地域づくりを進める必要があります。

高齢者人口の推移(各年4月1日現在)

区分		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
65歳以上 (人)	千種区	37,796	37,803	38,341	38,799	39,107
	名古屋市	539,168	550,443	558,441	565,788	570,043
高齢化率 (%)	千種区	23.7	24.0	24.2	24.5	24.7
	名古屋市	24.1	24.4	24.7	24.9	25.0

高齢化率の推移



出典:統計なごやWeb版「年齢別人口」より作成

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
高齢者が地域で安心して暮らせるまちだと思える区民の割合	73.2% (令和元年度)	78%
認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	8,391人 (令和元年度)	12,300人

主な取り組みの方針

■ 地域包括ケアシステムの推進

住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、医療・介護・認知症施策・介護予防・生活支援・住まいの各サービスを一体的に提供することで、地域で支え合う仕組みづくりを進めます。

■ 本人の選択と本人・家族の心構えへの支援

一人ひとりが元気な時から人生を振り返り、家族や身近な方と一緒にこれからの時間の使い方や人生の最終段階の迎え方などを考えるきっかけづくりなど、本人の選択と本人・家族の心構えの支援に努めます。

■ 地域活動の促進

外出や仲間づくりの機会を充実させるため、これから高齢期を迎える年齢層も含め、情報を発信し地域活動の担い手となるよう活躍の場を広げる支援をします。

また、行政・地域住民・民間事業者等の多様な主体と連携した見守り活動、学生を含む幅広い世代へ地域の助け合い活動や高齢者サロン等の居場所づくりの協力を呼びかけるなど、高齢者と地域のつながりを深める取り組みを進めます。

■ 認知症の人や家族に対する支援の充実

小中学生をはじめ多くの人々が認知症の理解を深める機会の充実に努めます。

また、認知症になっても安心して暮らせるまちをめざし、認知症の人やその家族の視点に立った取り組みを進めます。



高齢者サロン



認知症市民講座

施策 6 生涯にわたって心身ともに健康に暮らせるよう支援します

現 状

- 65歳以上の要介護・要支援者は、平成12年に施行された介護保険法施行以来年々増加しており、平成12年度末では千種区で3,027人でしたが、令和元年度末には7,759人と約2.6倍になっています。
- 介護予防や生活習慣病の予防には日常的な運動習慣があることが必要ですが、「運動習慣がある」という市民の割合は70歳以上では男性が40.4%、女性が32.3%となっている一方、20歳代では男性が22.8%、女性が7.5%と低い状況にあります。（※平成28年度市民アンケート）
- 千種区では、生活習慣病の予防のため若いうちから運動する習慣の普及を目的として「ママのためのビューティー講座」などを開催しています。
- 歯の健康づくりを推進するため、千種区歯科医師会と協働し、80歳で20本以上自分の歯を保つことを目的とした「8020運動」の推進や歯と口の健康週間に合わせて「歯と口の1日健康センター」を開催するなどしています。

課 題

- すべての区民が健康で心豊かに生活できる社会の実現をめざしていくためには、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防に向けて取り組む必要があります。
- 今後、ますます高齢化が進んでいく中で、高齢者自身が健康寿命の延伸に向けて、介護予防の知識を身につけ実践していく環境づくりが必要です。
- 生活習慣病の予防のため、若いうちから主体的・積極的に運動に取り組むことができるような環境づくりなどに向けた取り組みが必要です。



歯と口の1日健康センター

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
健康づくりへの取り組みが進んでいると思う区民の割合	65.0% (令和元年度)	69%
健康づくり事業の参加者数	559人 (令和元年度)	650人

主な取り組みの方針

■ 介護予防に向けた取り組み

高齢者になっても健康でいきいきとした生活ができるよう、認知症や食生活、健康的な身体づくりなどをテーマとした講座を実施することで介護予防についての知識の普及に努めます。

■ 生活習慣病予防をはじめとした健康づくりの推進

生涯にわたり健康で心豊かな生活を送ることができるよう、若いうちから運動する習慣の普及や歯の健康づくりの推進を目的としたイベントなどを実施することで、生活習慣病の予防や健康に対する意識の向上をはかります。



介護予防事業



ママのためのビューティー講座

現 状

- 名古屋市では、障害のある人もない人も誰もが、かけがえのない個人として尊重され、お互いを思いやる気持ちを持ちながら、安心して共に暮らせるまち・なごやをめざして、平成31年4月に「名古屋市障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」を施行しました。
- 千種区では、障害者自立支援連絡協議会などと連携して、障害のある人が地域で安心して暮らせるように、障害者福祉の充実に取り組んでいます。
- 千種区における障害者(身体障害、知的障害、精神障害)手帳所持者数は8,026人(令和2年4月1日現在)であり、人口に占める障害者手帳所持者の割合は4.86%となっています。

課 題

- 障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会(インクルーシブな社会)をめざすため、障害や障害のある人に対する理解を深めるための取り組みを推進していく必要があります。
- 地域で安心して暮らし続けるために、相談窓口の周知や様々な情報提供のほか、障害のある人の自立と社会参加を支援していく必要があります。

■ 人口に占める障害者手帳(種類別)所持者の割合 (令和2年4月1日現在) (%)

区分	身体障害者手帳	愛護手帳 (知的障害)	精神障害者 保健福祉手帳	合計
千種区	3.09	0.59	1.18	4.86
名古屋市	3.39	0.79	1.19	5.37

出典:名古屋市作成



啓発事業の様子



授産製品の販売

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
障害のある人が自立して、安心して暮らせるまちだと思う区民の割合	53.4% (令和元年度)	60%
障害に対する啓発事業の参加者数	391人 (令和元年度)	1,000人

主な取り組みの方針

■ 障害や障害のある人への理解の促進

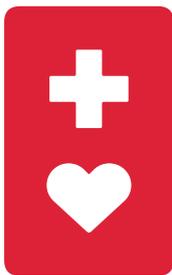
障害や障害のある人への理解を深めるため、関係機関と連携して、様々な障害特性の理解が進むよう啓発事業に取り組みます。

また、外見では分かりにくい障害のある人などが、周囲に配慮や援助を必要としていることを知らせる「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」の普及促進をはかります。

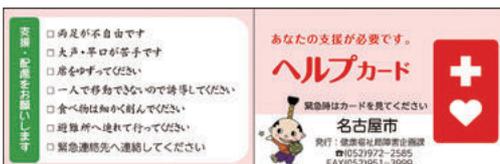
■ 障害のある人への自立支援の推進

地域で安心して暮らし続けるために、相談や助言を受けることができる相談窓口の周知や障害の特性に応じた情報提供に努めます。

また、就労等に関する事業所の情報提供や授産製品の販売促進など障害のある人への自立支援の推進に取り組みます。



ヘルプマーク



ヘルプカード



千種区障害者福祉事業所マップ

魅力と活力にあふれ、誰もがまちの魅力を語れるまち

施策 8 まちの魅力発信を積極的に進めます

現 状

- 民間調査の「愛知県民・名古屋市民が選ぶ住みたい自治体ランキング」で1位となるなど、住環境・商業・自然・教育がバランスよく調和した「住みたい・住みやすいまち」として非常に人気があります。
- 交通の利便性だけではなく、日泰寺や揚輝荘をはじめとする歴史的な建造物等が残されている一方、新たな若者向けの店舗やスポット等もあり、古さと新しさを兼ね備えたまちです。
- 名古屋の中心部にありながら東山公園や平和公園を有し、都市公園面積は名古屋市随一で緑豊かな地域です。
- 高校数、大学数も市内で最も多く、学生が多く活動するまちであり、教育・学習支援業に就く人の割合が他区に比べ高い水準にあるなど、文教地区としての一面もあります。

課 題

- これからも、区民の方々に「今後も住みたい」、「誇りをもてるまち」と感じていただくためには、住んでいる方々が「住み続けたい」と思うような取り組みや、千種区の魅力再認識できる取り組みを行っていく必要があります。
- まちの良さを再認識した区民自らが、その魅力を発信したくなるような取り組みが必要です。



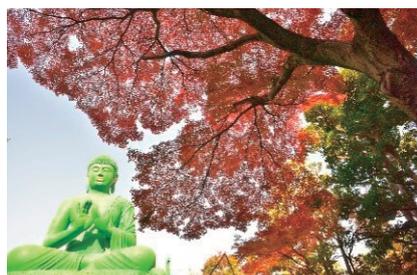
東山スカイタワー



覚王山ル・アンジェ教会



古川美術館



桃巖寺



揚輝荘 聴松閣

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
まちの魅力が十分に発信されていると思う区民の割合	47.6% (令和元年度)	53%
区公式SNSの閲覧(リーチ)数	19,964件 (令和元年度)	36,000件

主な取り組みの方針

■ 区の魅力発信

区内に残る歴史的建造物や若い世代に人気の施設などの魅力スポットを区内外に発信していきます。これらの魅力スポットをSNSなどの活用により発信していけるよう区内の大学生と連携したイベントを企画するなど千種区の良さを実感していただけるよう取り組みます。

また、区内の歴史的資源や豊かな自然など区の特徴を生かしながらふれあいと交流を深め、地域への愛着心を高める取り組みを実施します。

■ マスコットキャラクター「こあらっち」を活用した区の魅力発信

区のマスコットキャラクター「こあらっち」の認知度を高めるため、様々なイベントへの参加や「こあらっち」のオリジナルグッズの企画などの取り組みを進めるとともに、「こあらっち」を通して区の魅力を発信していくことで、千種区の魅力がより多くの方に伝わり、活気あるまちとなることをめざします。



■ 広報なごや・区公式ウェブサイト・SNS等を活用した魅力発信

多様な広報媒体を通して区魅力を積極的・効果的に発信するとともに、「見やすい」、「わかりやすい」構成や「興味がわく」内容となるよう、創意工夫に取り組みます。



区公式ウェブサイト

ウェブサイトは
こちらから



Facebookは
こちらから



区公式Facebook

施策 9 文化芸術活動やスポーツを通じてまちの活力を向上させます

現 状

- 文化芸術に関する市政アンケート結果では、「文化や芸術に触れることが大切だと思う人」及び「文化芸術活動が盛んになると名古屋の魅力やイメージが向上すると思う人」の割合はともに8割を超えていますが、実際に文化芸術活動を行っている区民の割合は2割程度に留まっています。
- スポーツの分野では、週1回以上の頻度で運動・スポーツを実施している区民の割合は44.3%であり、名古屋市スポーツ推進計画における目標値である65%には届いていません。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に続き、令和8(2026)年に愛知・名古屋で第20回アジア競技大会の開催が予定されていることから、スポーツに対する関心は高まっています。

課 題

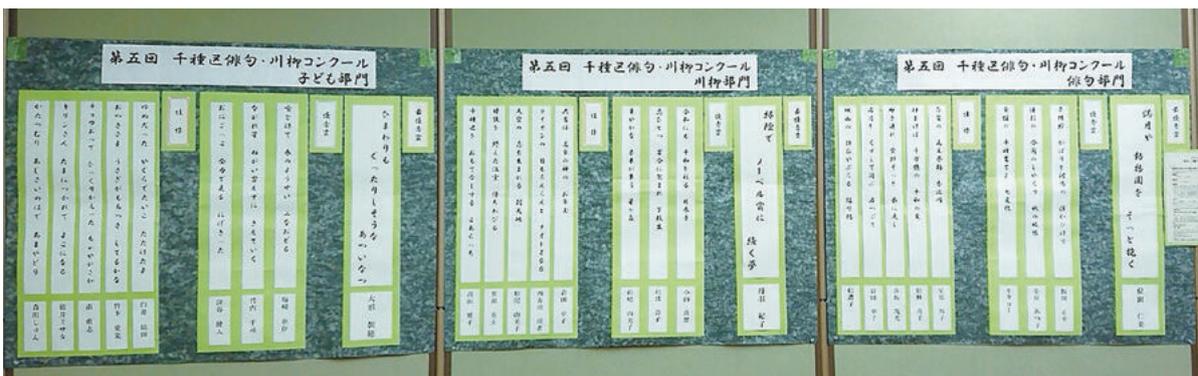
- 文化芸術に触れる機会を創出していくことで、区の魅力やイメージの向上に大きな役割を果たすといえるため、創作・発表の機会と鑑賞の機会の両面において、身近なところで気軽に文化芸術に触れる機会を創出する必要があります。
- スポーツに対する関心が高まる機会を捉え、子どもから大人まで幅広い年代がスポーツを始めるきっかけづくりに取り組むことで、区民の生きがいづくり、健康づくりに寄与し、活力あるまちづくりにつなげていくことが必要です。



春のいけばな展



美術展



俳句・川柳コンクール

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
文化芸術活動やスポーツを通じてまちの活力が向上していると思う区民の割合	56.0% (令和元年度)	61%
週1回以上の頻度で運動・スポーツを実施している区民の割合	44.3% (令和元年度)	65%
区が主催する文化芸術に関する事業の参加者数	1,451人 (令和元年度)	2,500人

主な取り組みの方針

■ 文化芸術活動の振興

文化芸術事業について、より多くの区民の方に知っていただき、楽しんでいただけるよう関係団体とも連携・協力しながら広報や開催方法などを工夫します。

また、外国人が日本の文化芸術に触れ、日本文化への理解を深める機会を創出します。

■ 生涯スポーツの振興

各種区民スポーツ大会をより多くの方に知っていただけるよう広報を充実するほか、区民の自主的なスポーツ・運動習慣の定着を促す啓発活動を行います。

また、スポーツに関心が高まる時機をとらえたイベントを開催することにより、新たな仲間づくりや健康づくりにつながる生涯スポーツの魅力を広く伝え、その振興をはかります。

■ 若い世代の発表の場の提供

イベントやキャンペーンなどにおいて、若い世代の活躍を促進するような文化芸術活動の発表の場を提供し、活力あるまちづくりにつなげます。



家族ジョギング・ウォーキング大会



学区対抗グラウンド・ゴルフ大会

快適な都市環境とを感じるまち

施策 10 きれいで気持ちよく暮らせる環境をつくります

現 状

- これまで寄せられた区民意見からは、環境・衛生に対する関心が高く、自分たちでまちをきれいにするという機運が見られます。
- ごみ出しについては、特に来日したばかりの外国人がルールを理解するのに時間を要し、地域からごみ出しのルールが守られていないといった苦情が多くなっています。
- 犬や猫などについての苦情・相談が多く、平成30年度は16区中で5番目となっており、中でも犬のフンの放置やのら猫への餌やりが上位を占めています。
- 近年、樹木が繁茂するなどにより景観を阻害している空家や空地が一定数点在しており、公衆衛生、防災、防犯上地域で不安視されているほか、いわゆるごみ屋敷と呼ばれる住居についても発生することが予想されます。

課 題

- 区民の協力を得ながら、道路や公園など快適な都市環境となるよう除草や清掃等を行っていますが、十分に行き届いていないといった声もあります。
- 市外転入者へごみの分別の周知や、今後増加が見込まれる外国人に対して、ごみの分別の徹底や出し方のルールなどが理解されるよう取り組んでいく必要があります。
- ペットの飼い主マナーの向上とのら猫による迷惑を防止する必要があります。
- 空家や空地に対する対応、いわゆるごみ屋敷と呼ばれる住居に対して、引き続き関係機関が連携して対応していくことが求められています。



クリーンキャンペーン



ペットの飼い主マナーパトロール

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
きれいで気持ちよく暮らせるまちだと思う区民の割合	85.4% (令和元年度)	89%
ペットの飼い主マナーの向上に向けた事業参加者のうち効果があったと回答した人の割合	41.0% (令和元年度)	80%

主な取り組みの方針

■ 快適な暮らしに向けた取り組み

地域の方々と協働して清掃活動を実施するなど自分のまちを自分できれいにする意識を高め、快適に暮らせるきれいなまちづくりに努めます。

また、外国人に対して地域の清掃活動への参加を呼びかけ、自分のまちを自分できれいにする意識の醸成に努めます。

■ 資源・ごみの分別方法の周知徹底

特に市外転入者や外国人に対して、ごみの分別の徹底や出し方のルールを守っていただけよう、転入時における周知や地域の方々と連携した周知に努めます。

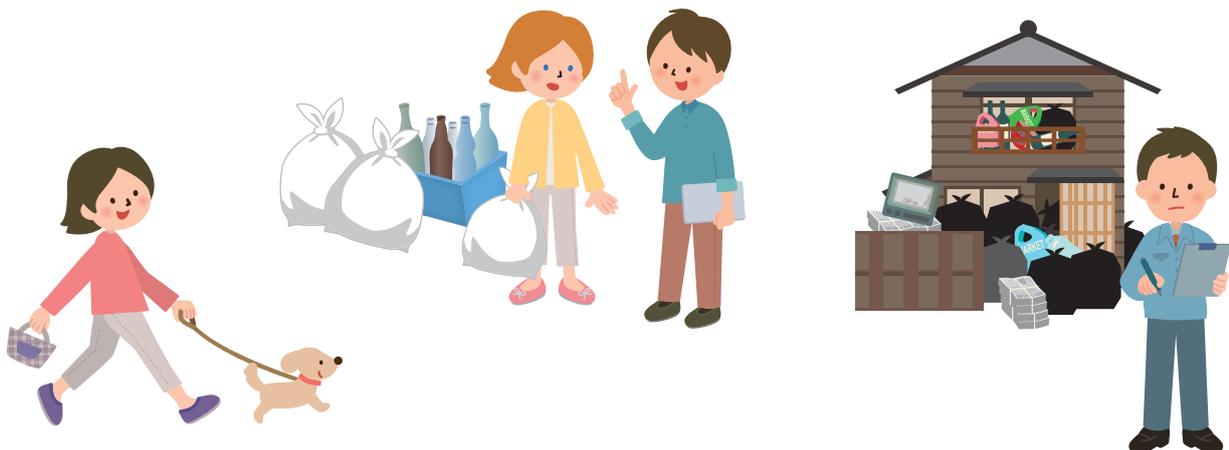
■ ペットの適正な飼育に関する啓発活動の実施

ペットの飼い主マナーの向上に向けた地域での取り組みを推進します。

また、のら猫が地域で増えないよう、避妊去勢手術を推進します。

■ 空家・空地・ごみ屋敷への対応

地域の方々と協働しながら、空家や空地の所有者やいわゆるごみ屋敷と呼ばれる住居に住まれる方に対応を呼びかけるなど引き続き関係機関と連携した対策を進めます。



施策 11 身近な自然にふれる機会をつくります

現 状

- 都市公園の面積が市内で最も大きく、東山公園や平和公園などには今でも多くの緑が残されています。
- 東山公園内には一万歩コースが設定され、多くの区民に親しまれています。
- 花の名所として、茶屋ヶ坂公園のアジサイや千種公園のユリが多くの人に知られています。
- 都市化の進展や緑の減少などに伴い、ヒートアイランド現象が顕在化してきています。

課 題

- 今後も区内に残された自然への関心を高め、生物多様性や環境保全の必要性について理解を深める必要があります。
- 都市部における緑の保全や緑化の推進には、地域住民団体との連携が不可欠であり、緑化に関する情報提供や緑化イベントを通じた普及啓発などの取り組みを引き続き進めていく必要があります。



茶屋ヶ坂公園のアジサイ



千種公園のユリ



成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
自然と触れ合い環境保全について考える取り組みが進んでいると思う区民の割合	65.0% (令和元年度)	70%
「緑のまちづくり活動」に携わった人数(延べ人数)	13,024人 (令和元年度)	13,600人

主な取り組みの方針

■ 身近な自然を感じられる取り組み

区内の公園などに残された自然と触れ合い、生物多様性や環境保全について考える取り組みを進めます。

■ 地域と連携した緑のまちづくり活動の推進

緑の保全や創出、河川の美化に関わる人々の環を広げるため、公園・街路樹・河川愛護会など緑のまちづくり活動団体等の設立の呼びかけやその活動の支援など地域と連携した緑のまちづくりを進めます。

■ 親しまれる公園に向けた取り組み

茶屋ヶ坂公園のアジサイや千種公園のユリなど花の開花状況をウェブサイトで発信するなど情報の提供を行い、より親しみ、楽しんでいただける公園となるよう努めます。



自然観察会



公園愛護会活動

信頼される区役所づくり

区の将来ビジョンの基本目標を実現するため、5つのめざすまちの姿ごとの取り組みのほか、「信頼される区役所づくり」を進めます。

区役所は区民の皆さまに最も身近な行政機関です。区民の皆さまのご意見やニーズをお聴きしながら、さらなる区民サービスの向上に取り組むことで、信頼される区役所となるよう努めます。

信頼される区役所づくり

施策 12 区民ニーズの把握

多様化する社会情勢を踏まえ、様々な機会を通して区民の皆さまの意見聴取に努めます。

また、学生が多いという千種区の特徴を踏まえ、若い世代に向けた取り組みを進めます。



区民会議(区民の集い)

施策 13 区民サービスの向上

区民ニーズを踏まえ、区役所の窓口環境の整備や職員一人ひとりの意識改革に努めることで区民サービスの向上をはかります。

また、外国人が多いという千種区の特徴を踏まえ、多文化共生に向けた取り組みを進めます。



フロアサービスの様子

成果指標	基準値(現状値)	目標値(令和5年度)
区役所が区民ニーズを把握していると思う区民の割合	53.8% (令和元年度)	59%
区役所の窓口サービスに満足している区民の割合	95.2% (令和元年度)	100%

様々な機会を通じた意見聴取

区政運営などについてご意見をお聴きする区民会議や区民アンケートを実施しニーズの把握に努めます。
また、学区を担当する職員を配置し、区役所と地域のコミュニケーションを深められるよう地域の声の把握に努めます。

若い世代に向けた取り組み

将来を担う「わかもの」から、今後のめざすまちの姿に対するご意見や地域課題の解決に向けたご提案をいただく機会を学校に出向くなどして設け、若い世代を活用した取り組みや若い世代との連携を進めます。

窓口サービスの向上

わかりやすい窓口案内に努めるとともに、窓口の待ち時間を少しでも短縮できるよう取り組み、来庁者の満足度の向上をめざします。
また、障害のある人や外国語を話す人に対して円滑なコミュニケーションがはかれるよう取り組みます。

職員一人ひとりの意識改革

職員が相手の立場になって考え行動できるよう意識改革を進めます。
また、様々な研修などを通して、職員一人ひとりが自らの業務に精通するとともに業務改善に取り組むことにより、区役所全体の仕事の質を高めます。

多文化共生に向けた取り組み

国籍や文化的背景などが異なる人々と地域社会との「多文化バリアフリー」を推進するため、職員の意識改革に向けた取り組みを実施するほか、日本の文化や生活習慣の理解を深める取り組みを実施します。



千種区将来ビジョン

発行・編集

千種区役所区政部企画経理室

〒464-8644 名古屋市千種区覚王山通8丁目37番地

(電話) 052-753-1932 (FAX) 052-753-1924

(HP) <http://www.city.nagoya.jp/chikusa/>

発行年月 令和2年5月

